

地域づくりに効果的な伝統技術の保全・活用方策に関する調査

Research on the effective use of traditional construction methods in regional development

(研究期間 平成 28～29 年度)

社会資本マネジメント研究センター
Research Center for
Infrastructure Management
緑化生態研究室
Landscape and Ecology Division

室長
Head
研究官
Researcher

舟久保 敏
Satoshi FUNAKUBO
西村 亮彦
Akihiko NISHIMURA

This study aims to establish practical methodology for conservation and utilization of traditional construction methods. The authors carry out analysis of current status of human resources and material resources related to traditional construction methods which characterize historic townscape in Japan. In order to reveal recent trends in conservation and utilization of traditional construction methods, the authors also carry out comparative analysis of 23 historic conservation projects, which are classified into 5 groups according to their strategies and business schemes.

【研究目的及び経緯】

平成 20 年に「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」（以後、「歴史まちづくり法」という）が制定されて以来、歴史的風致維持向上計画の認定を受けた 53 市町（平成 28 年 3 月末現在）では、国の支援を受けながら、地域固有の歴史と文化を活かした「歴史まちづくり」を進めてきた。

こうした状況の中、地域固有の伝統工法を用いた建築物・土木施設等の歴史的資源の保全・活用に係る人材、素材、資金等の確保が課題とされており、自治体、業界団体、地域住民、民間まちづくり組織等、多様なステークホルダーが連携しながら、技術の伝承と景観形成、防災・減災、観光振興等が一体となった地域づくりを効果的に実践するためのアイデア・ノウハウの蓄積と共有が求められている。

また、平成 29 年度には「歴史まちづくり法」に基づく認定都市の一部が計画期間の満了を迎えることとなり、これらの市町においては、一期計画で達成できなかった事項や新たな課題に対応しながら、継続的に歴史まちづくりを展開するべく、二期計画を策定することが想定される。このため、一期計画に基づく取り組みの長期的な成果を評価するとともに、二期計画の策定に向けた課題を抽出するための、評価の枠組みが求められている。

【研究の内容】

1. 伝統工法に係る人的、物的資源に関する調査

全国を対象として、地域固有の歴史的風致を構成す

る建築外構等（塀・垣・門・雁木・擁壁等）に適用される伝統工法に係る人的、物的資源について、業界団体に対するヒアリングや各種統計データを用いた調査を行い、各種資源の地域的な分布を整理した。

2. 伝統工法の保全・活用事例に関する調査

全国各地における歴史的風致に係る伝統工法の保全・活用を通じた地域づくりの取り組みを収集し、伝統工法の概要、取り組みのプロセス、活動体制、資金の流れ、地域づくり上の効果等について、文献調査・ヒアリング調査を実施した。

3. 進行管理・評価制度の改定に関する検討

現行の進行管理・評価制度について、各認定都市がこれまで作成してきた評価シートの横断的なレビューを行い、制度の運用状況を把握するとともに、学識経験者及び認定都市の自治体職員からなる研究会を設置し、長期的な歴史まちづくりの成果を評価するための枠組みについて検討を行った。

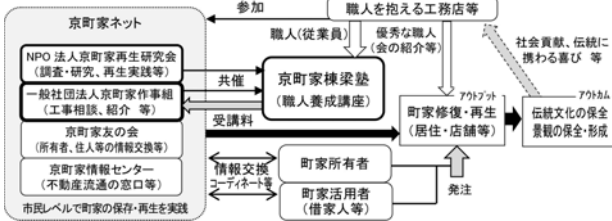
【研究の成果】

1. 伝統工法に係る人的、物的資源の状況

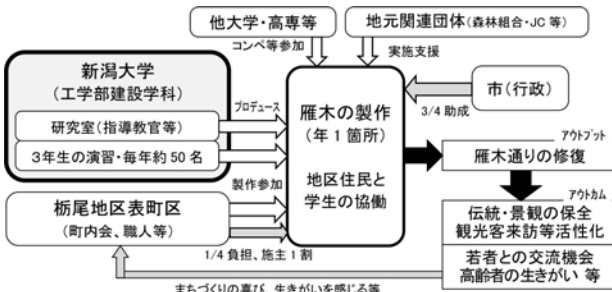
人的資源については、大工、左官、瓦葺き、茅葺き、石工、煉瓦施工、造園について、有資格者や高度な技術を有する技能者に関する情報を得ることができた。物的資源については、木材、竹、茅、瓦、石材、煉瓦、漆喰等について、全国的な生産・流通の状況を把握することができた。

2. 伝統工法の保全・活用に向けた取り組み

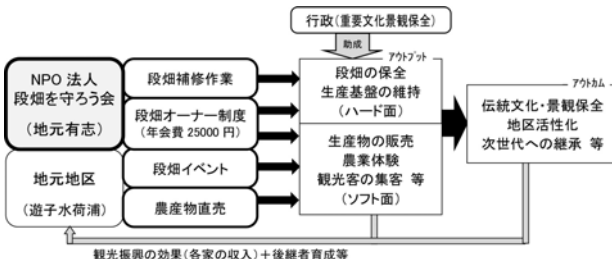
伝統工法の保全・活用を通じた地域づくりの取り組み 23 事例について、活動内容と取り組み体制に基づく活動スキームの整理を行ったところ、①学校・塾タイプ、②実践学習タイプ、③自助・共助タイプ、④専門家ネットワークタイプ、⑤データバンク・ファンドタイプの5つに分類することができた。(図-1)



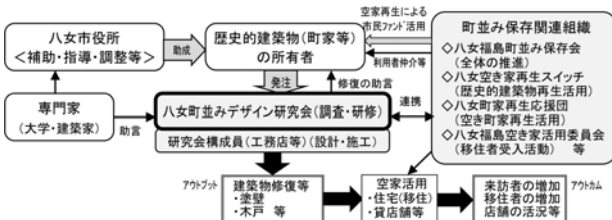
①学校・塾タイプ (棟梁塾)



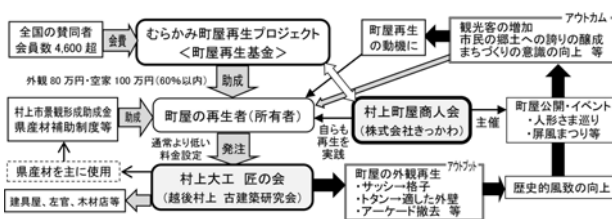
②実践学習タイプ (栃尾表町雁木プロジェクト)



③自助・共助タイプ (遊子水荷浦の段畑保存)



④専門家ネットワークタイプ (八女福島町の町並み保存)



⑤データバンク・ファンドタイプ

(むらかみ町屋再生プロジェクト)

図-1 活動スキームのタイプ

3. 進行管理・評価制度の改定

認定計画の長期的な成果の評価手法について、学識経験者及び認定都市に対する意見聴取を実施した結果、①評価の視点は歴史的風致の内容・性格に応じて各認定都市が自由に設定できること、②法定協議会・地域住民による外部評価を取り入れること、③アウトカムに加えて方針達成・効果発現のプロセスについても評価すること、④直接的な効果に加えて波及効果についても評価すること等、基本的な考え方を得た。これに基づいて、計画期間の中間年度/最終年度に中間評価/最終評価を導入する改定方針(図-2)を定めるとともに、評価シートの設計(図-3)、及びシート記入要領の作成を行った。

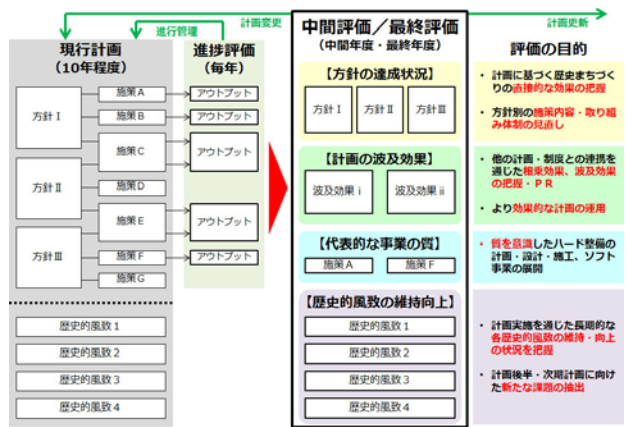


図-2 最終評価 (中間評価) 導入のイメージ

この図は、最終評価シートの記入例を示しています。評価項目（方針別）と評価内容（達成状況）が記載されています。また、評価結果のグラフ（円グラフ、棒グラフ）も示されています。評価項目は、1. 歴史的風致の維持向上、2. 歴史的風致の維持向上、3. 歴史的風致の維持向上、4. 歴史的風致の維持向上です。評価内容は、1. 歴史的風致の維持向上、2. 歴史的風致の維持向上、3. 歴史的風致の維持向上、4. 歴史的風致の維持向上です。

図-3 最終評価シートの記入例

【成果の活用】

今年度の成果も踏まえながら、平成 29 年度には防災・減災に着目した歴史まちづくりの調査を行うとともに、有識者に対する意見聴取を実施し、歴史的風致に係る伝統工法の保全・活用を通じた地域づくりを実践する上での様々な留意事項を分かりやすく解説した、手引き形式の技術資料を取りまとめる予定である。